遠野市史編さん活動報告

Compilation of Tono History

vol. 34
2023年3月

令和５年３月４日（土）

第６回民俗部会研究会を開催しました

第６回民俗部会研究会では、前川さおり委員による研究発表と、調査・執筆の進捗状況についての報告や意見交換を行いました。各委員からは、話者を見つけて聞き取り調査を行っていることや、調査対象者の記憶が曖昧な場合には写真が有効であること、市外の委員からは頻繁に聞き取り調査ができないので年代別のアンケートの実施を検討していることなどが報告されました。今後も継続して調査を行い、編目案に変更を加えながら、執筆を進めていきます。

▲研究会の様子

朝市に関する聞き取り調査

３月３日（金）、川島秀一委員が聞き取り調査を行いました。遠野市朝市実行委員会の方々にご協力いただき、昭和 50 年代頃から開催していた朝市について教えていただきました。

朝市は、当時野菜園芸研究会に所属していた市内の野菜農家を中心に故工藤古寿氏が発起人となり、直接消費者に販売するために始まりました。４月末から 11 月の毎週日曜日、朝５時から開催し、多い時では 30 人以上が出店しました。野菜のほか、団子、花、果樹、漬物が売られ、春は山菜や野菜の苗、夏は盆花が人気だったということです。最初は遠野市民センターの駐車場で、後に仲町や遠野駅前でも市を開催し市外のイベントにも出店していました。しかし産直ができ、売る人も高齢化したことなどから現在は朝市は行われておらず、実行委員会の組織名を残して遠野風の丘で漬物や暮坪かぶなどを販売しています。

▲聞き取り調査の様子

雪形調査

翌５日（日）は岩崎真幸部会長が雪形（ゆきがた）の調査を行いました。雪形とは、春に山肌の残雪が馬や牛、鳥などの形に見えることを言います。県内では、岩手山のワシの雪形がよく知られています。雪形は昔から種まきや田植えなど農作業の目安とされてきました。このような自然現象や動植物の移り変わりなどを目安とする暦を自然暦（しぜんれき）といいます。

市内の雪形を目安とした自然暦は、次のようなものがあります。

- **物見山の雪は石の字形になったら畑蒔け**
- **小友町の外山境の西山に、残雪に布を敷いて長帯のように見えると、苗代に稲種を下す時期**

この日は物見山や護摩堂山などの雪形を調査しましたが、現在は木が多く、見る方角やその年の天候によっても残雪の形が変化するため、特定はなかなか難しいことがわかりました。

▲早春の物見山

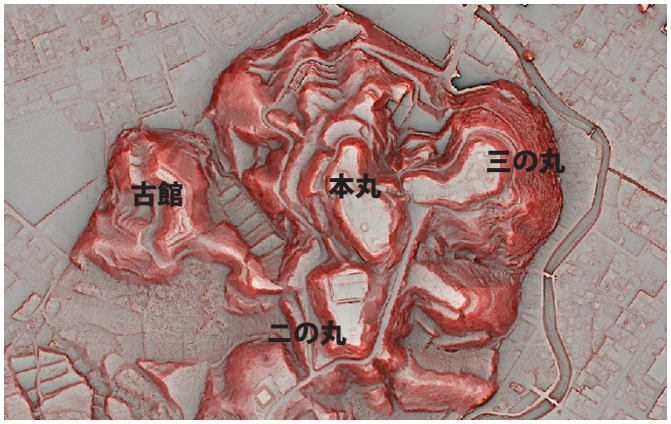
令和５年３月

鍋倉城、横田城等の調査を行いました

３月下旬、中世・文献グループで鍋倉城、横田城等の調査を行いました。今回は資料編に掲載する城の縄張図（なわばりず）*を作成するため、５日間にわたって現存する遺構や地形を確認しました。

鍋倉城は、主に西側の古館（ふるだて）を中心とする戦国期の遺構を確認し、資料編では戦国期鍋倉城を中心に紹介することとしました。横田城は城全体を調査し、郭（くるわ）の位置や大手道、搦め手、水の手*などを確認しました。また、真立館（まったつだて）、阿曽沼館の再調査もあわせて行いました。

今回、調査の大きな助けになったのは赤色立体地図です。赤色立体地図は 2002 年に開発された地形の立体表現手法で、赤色の彩度と明度を変えることで地面の細かな凹凸をも表現できます。樹木などに邪魔されず即座に地形を把握できるため、郭や土塁といった人工的な地形を探す城跡調査には非常に有効で、今後、現在知られていない城館跡の発見も期待されます。



▲鍋倉城の赤色立体地図。赤が濃いほど傾斜が大きく、尾根は明るく、谷は暗く表される。

▲調査の様子（鍋倉城西御門跡）

▲調査の様子（中世の鍋倉城大手道の確認）

▲調査の様子（横田城の搦め手付近）

用　語　解　説

＊縄張図…なわばりず。
城郭の郭の配置や門、櫓など防御施設の構成を計画し、設計することを縄張といい、現存する遺構から郭や防御施設の配置を示した図面のこと。

＊水の手…みずのて。
城の中で用いる水を得るための場所や施設。川や堀、水路など。

鍋倉城跡は、令和５年３月20日の官報告示を経て国史跡に指定されました。市内の国指定史跡は綾織新田遺跡に次いで２件目となります。

市史編さん室では、古い時代の資料や館跡を調査しています。
古文書や古写真をお持ちの方は、ぜひ市史編さん室までご連絡ください。

編集・発行　遠野市民センター市史編さん室
〒 028-0515　岩手県遠野市東館町３番９号（遠野市立図書館・博物館内）
TEL:0198-62-2340　FAX:0198-62-5758